岐阜

美術品高価買受《秘密厳守》
版画 絵画 掛軸 陶器
無料鑑定 出張いたします
岐阜市本荘中ノ町10丁目37-3 (県美術館東へ200m)
売るのも買うのも ギャラリー梁雲 株式会社 光陽社
0120 14-5448

岐阜総局
〒500-8076
岐阜市司町31
058-263-4125
FAX 262-6661
Eメール：gifu-mytown@asahi.com
高山支局 0577-32-0193 FAX 32-3364
岐阜東部支局 0572-22-0745 FAX 22-0194
大垣支局 0584-81-3360 FAX 81-3361
中津川支局 0573-66-1552 FAX 66-1558
岐阜地域情報 http://www.asahi.com/area/gifu/
ご購読・配達は 0120-33-0843 058-277-5771
紙面へのご質問は 0570-05-7616
紙面へのご意見は 0570-05-7616
広告は 058-264-5186

羽島市新庁舎が起工

21年10月に開庁予定

羽島市の新市庁舎の起工式に先立ち、関係者が出席して安全祈願祭があった＝羽島市

羽島市で25日、新しい市庁舎の起工式があった。同市竹鼻町の現在の庁舎の南隣に建設され、2021年10月に開庁予定だ。

新庁舎は鉄骨5階建ての免震構造で、延べ約9722平方㍍。今年9月に予定されていた1回目の建築工事の入札が不調に終わり、完成予定が4カ月ずれ込んだ。

松井聡市長は起工式で、築60年になる現在の庁舎は、老朽化や耐震性不足などの課題を抱えていると説明。新庁舎は「市民の意見を設計に取り入れ、市民と共につくり育む庁舎」だとして、建設に理解を求めた。

21年度「貯金」ゼロの見通し

補助金など削減へ

新市庁舎の着工に先立ち、羽島市は歳出削減を盛り込んだ「財政安定化対策」を発表した。庁舎建設などに伴い、市の「貯金」にあたる財政調整基金が21年度にゼロになる見通しだとして、市民病院への繰出金の削減▽家庭ごみの処理手数料の導入▽各種団体などへの補助金の削減などの方針を示した。

庁舎建設には、本体工事だけで約46億5千万円を見込む。市の試算によると、18年度に約30億2千万円だった財政調整基金（貯金）の残高は、21年度にゼロとなり、24年度に約45億4千万円分の財源不足が見込まれるとしている。市は災害などに備えるため、24年度に13億4千万円の残高を確保しておきたい考えだ。

市民病院に対しては、今年度当初予算で約7億5千万円だった一般会計からの繰出金を、来年度は5千万円分減らす方針。自治会や文化・スポーツなど各種団体などへの補助金・交付金も、来年度は総額で1割減らす。下水道や市有施設の使用料は来年度、値上げを含めて検討する。（高木文子）

㊤高校生が提案する和綿と美濃和紙を使った洋服（右）など、和綿を生かした様々な作品が並ぶ㊧和綿で作られたマスク。様々な色も自然由来の染料で染められている＝いずれも岐阜市学園町3丁目

和綿の魅力 服やタオルで発信

岐阜で50作品展示 来月8日まで

国内で昔から栽培されていたワタから作った綿「和綿」の魅力を知ってもらおうと、「tomoniつながる和綿プロジェクト展」が、岐阜市学園町3丁目の「ぎふ清流文化プラザ」で開かれている。12月8日まで。

プロジェクトは、かつて国内で栽培が盛んだった「和綿」を見直し、栽培の復活や、アートやビジネスなど様々な分野と協力しながら、雇用の創出や商品開発につなげていこうとするもの。和綿は洋綿よりも、繊維が短かったり、油分が多かったりといった特徴があるという。

会場には県産や熊本県産の和綿を使った衣類やカバンなど、様々な作品約50点を展示。福祉事業所の利用者や高校生らの作品のほか、がん患者のストレス軽減につながる一枚のタオルを切らずに作った帽子や、マスクなどもある。また、来夏の東京五輪・パラリンピックをにらみ、パラアスリートの提案による作品も展示されている。

県教育文化財団の担当者は「和綿は現在、岐阜市内で有機栽培し、収穫量を増やす取り組みを進めている」と話し、福祉施設での仕事の創出や、商品開発を通して県産品としての成長にも期待する。将来的には素材の特性を生かし、医療分野などにも展開することで、さらに可能性を広げていきたい考えだ。（古沢孝樹）

「若手が使って」弦楽器40丁寄付

愛知・大府の間瀬さん 岐阜のサラマンカホールに

㊤寄贈されたチェロと間瀬穂積さん
㊦寄贈された弦楽器

愛知県大府市の音楽愛好家、間瀬穂積さん(70)が、半生をかけて築いた弦楽器のコレクション40丁を、岐阜市のコンサートホール「OKBふれあい会館サラマンカホール」に寄付した。ホールはコレクションを元に、楽器を若手演奏家に無償で貸す事業を始める。

間瀬さんは元地方公務員で、仕事の傍ら、アマチュア演奏家として長年弦楽器に親しんだ。中学時代にブラスバンドでパーカッションを担当していた間瀬さんが、弦楽器に取り組み始めたのは26歳のとき。当時勤務していた公民館で弦楽器にさわったところ、「一気に火がついた」。バイオリンを始め、のちにビオラに転じた。演奏にのめり込むと、今度は「いい楽器が欲しい」と思い、次第にコレクションが増えた。

半生かけて収集 無償貸与へ

寄贈されたのは、バイオリンとビオラ、チェロの計40丁。県内の音楽関係者によると、中にはチェロ1丁で1千万円の価値がある品もあるという。

楽器代は、間瀬さんいわく「ケチケチ生活」で捻出した。刺し身は、スーパーの閉店間際に半額になったものを購入。移動はもっぱら電車。回数券や金券ショップで少しでも安く済ませるよう努めた。「ちりも積もれば山となる」を地で行く倹約で楽器を買った。

イタリアで20世紀を代表する弦楽器制作者の一人とされるレナト・スクロラヴェッツァ氏の作品を筆頭に若手にとっては高価な楽器を、有望な演奏家に貸すのも楽しみだった。国際的に活躍するチェロ奏者・佐藤晴真さんに貸したこともあるという。ただ、個人でコレクションを維持し、貸し出しを続けるのに限界を感じるようになった。

「『弦楽四重奏ができるように』と集めた楽器を、ただ売却して老後資金にしてもむなしいだけ。それなら、楽器を通じて若い人たちが成長するプロセスを見守る『精神的なぜいたく』を味わいたいと思った」

「寄付した楽器を、次の世代の人たちにフェアな手続きで貸し出しをしてくれるところはないか」。東海地方の音楽ホールを巡り、「ここなら」と思ったのがサラマンカホールだった。

嘉根礼子支配人によると、ホール側は楽器を「間瀬コレクション」と命名しようとしたが、間瀬さんは固辞。代わりに「清流コレクション」と名付けた。

ホールでは寄付を受け、若手の音楽家に楽器を無償で貸す「ぎふ弦楽器貸与プロジェクト」を始める。来年3月にチェリストの原田禎夫さんらによる審査会を開き、合格者に2年間無償で貸す。年に1回、楽器を貸した人たちのコンサートを開く計画だ。

嘉根支配人は「これだけの規模で若手演奏家に楽器を無償で貸し出すという事業は、全国的にも珍しいのではないか。間瀬さんの思いに応えたい」と話す。

間瀬さんは言う。「コンサートをこっそり聴きに行って『俺よりいい音を出しているな』と感じられたら、これ以上の喜びはない」（山野拓郎）

鵜飼の魅力向上 来年も取り組み

運営協で意見交換

岐阜市の長良川鵜飼の運営協議会（会長・浅井文彦副市長）が25日開かれ、市や鵜匠、観光関係者らが今年の取り組みについて意見を交わした。河川敷や河畔の桟敷からの観覧などの新しい試みを模索し、来年も鵜飼の魅力を向上させたいとしている。

今年の鵜飼観覧船の乗船客は9万1178人。記録のある1965年以降では、過去最少だった昨年に次いで2番目に少なかった。8月には台風の影響で観覧船の係留場所と本流を仕切る堤が崩れ、観覧船4隻が流された。堤が崩れるのは2年連続だという。

会合では「週末などに乗船客が満員にならない。ニーズをよく分析すべきだ」「船員のなり手不足が深刻」などの意見が出た。

■ゴルフコンペで寄付

「明智ゴルフ倶楽部」（本社・恵那市、戸谷隆平社長）は25日、東日本大震災で被災した子どもたちを支援するためのチャリティーゴルフコンペで集まった計70万円の支援金を、公益社団法人「チャンス・フォー・チルドレン（CFC）」に寄付した。

同社は、経営するゴルフ場でチャリティーコンペを2017年5月より開催しており、25日の開催で5回目。これまでに集まった70万円を寄付した。CFCは、経済格差が教育格差となり貧困が世代間で連鎖するのを防ぐことをねらい、子どもたちが学習塾代などに充てられる「スタディクーポン」の普及に取り組んでいる。東日本大震災で被災した子どもたちも支援しており、今回の寄付金は被災地の子どもたちが使う「スタディクーポン」の原資として活用されるという。

●300万円詐欺容疑で男を逮捕

恵那署は25日、店舗開店の保証金名目などで恵那市内の女性(37)から300万円をだまし取ったとして、京都市左京区岩倉村松町、自称派遣社員土居幹正容疑者(45)を詐欺の疑いで逮捕し、発表した。「間違いありません」と容疑を認めているという。

署によると、土居容疑者は2017年12月27日、インターネットの掲示板サイトに「かなりの収入が見込める」などと掲示。サイトを見た女性と恵那市内で面接して「ブランド品を安く仕入れられる。ショップオーナーを募集している」などと話し、保証金名目で18年1月12日に200万円、17日に100万円を、それぞれ自身の預金口座に振り込ませて、だまし取った疑い。

●恵那山の男性遺体、身元判明

中津川署は25日、中津川市神坂の恵那山中で見つかった男性の遺体は、横浜市南区の無職の男性(26)と分かったと発表した。死因は失血死。署は、付近に血の付いた刃物があり、左胸に刺したような傷があったが、着衣の上から刺したり争ったりした跡などがないことから、自殺とみて調べている。

台風19号災害救援金

朝日新聞厚生文化事業団受け付け

1万円 多治見市・タカバヤシユウコさん、白川町・朴英子さん

おくやみ（敬称略）

◆岐阜地区
【岐阜市】林みな(98)前一色▽湯口康成(66)柳津町高桑西▽黒岩芳則(69)若福町【各務原市】上口猛司(80)新鵜沼台▽清水一光(96)蘇原伊吹町【瑞穂市】伊藤アキ(94)七崎
◆西濃地区
【大垣市】伊藤静尾(98)赤坂大門▽沢村幹三(87)林町【養老町】近藤利美(84)大野【垂井町】井上一夫(66)綾戸【関ケ原町】杉山彌市(92)今須【安八町】金森隆夫(87)牧
◆中濃地区
【関市】長瀬ひろ枝(93)西本郷通【美濃加茂市】前島栄子(88)太田本町【郡上市】河合ふみ子(86)白鳥町大島
◆東濃地区
【多治見市】浅野幸子(88)笠原町【中津川市】原喬子(92)付知町▽小縣雅之(87)川上【瑞浪市】古川千鶴子(82)寺河戸町【恵那市】加納きぬ枝(85)岩村町▽大島博郎(90)山岡町原▽木下敏子(77)明智町【土岐市】須崎チヨ子(100)泉が丘町
◆飛騨地区
【高山市】尾崎まつ(98)国府町金桶▽津田一美(93)花岡町【飛騨市】志田昌子(94)古川町増島町

県下最大級
メーカー直販
掛軸/絵画/画材/額縁/工芸品/ひな人形 五月人形/岐阜ちょうちん/念珠
美術の森
額縁のデパート
美術の森
本巣市宗慶557-1 (社)日本人形協会会員
午前10時～午後7時(毎週水曜日定休)
http://www.bijyutunomori.jp
TEL.058-323-8018

高校転校希望
高校中退・再入学希望
見学会 相談会 随時開催中!
一般社団法人 岐阜未来教育学園
関・一宮 岐阜未来 検索

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

障害のある人もない人も共に生きる社会を考えるシンポジウム
できることから考える
定員300名様 入場無料

誰でも事故や病気などにより、障害を有することになる可能性があります。
障害のある人も暮らしやすい社会をつくることは、すべての人にとって大切なことです。
そこで、障害のある人とない人がともに生きる社会に必要なことは何か?を考える
シンポジウムを開催いたします。皆さまふるってご参加ください。
※名古屋市では、「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」を施行し、障害や障害のある人への理解促進と、障害を理由とする差別の解消の推進に取り組んでいます。

日時 2020年1月25日(土) 開場 13:00 開演 13:30[終演16:15予定]
会場 朝日ホール
名古屋市中区栄1-3-3 朝日会館15階
JR名古屋駅より徒歩15分
地下鉄東山線・鶴舞線伏見駅(7番出口)より徒歩5分

●主催：名古屋市 ●運営：中部朝日広告

プログラム
第1部 基調講演 13:30～14:10
いちばんじゃなくて、いいんだね
～生まれてきてくれて、ありがとう～
元五輪ランナー・タレント・熊本県議会議員 松野明美さん

1968年、熊本県生まれ。高校卒業後、ニコニコドーに入社し、陸上部に所属。88年ソウル五輪女子1万mに出場(日本新記録)。93年、名古屋国際女子マラソン銀メダル。引退後、結婚し、2002年、長男・輝仁誕生。翌年、次男・健太郎が生まれてすぐダウン症と診断。

第2部 講演 14:10～14:40
「障害のある人から見たやさしいまちとは?」
弁護士・名古屋市視覚障害者協会 会長 田中伸明さん

休憩

第3部 パネルトーク 15:00～16:00
「障害のある人もない人も共に生きる社会の実現へ」
パネリスト
松野明美さん(元五輪ランナー・タレント・熊本県議会議員)
田中伸明さん(弁護士・名古屋市視覚障害者協会 会長)
名古屋市内事業者の方々ほか
コーディネーター
伊藤葉子さん(中京大学現代社会学部准教授)
※都合により出演者や内容が変更となる場合があります。

名古屋市がめざすまち
名古屋市では、市・事業者・市民がともに、障害や障害のある人への理解を深め、みんなが安心して暮らせるまちをつくることをめざします。

大切なこと
社会には、障害のない人にとってはなんでもないものでも、障害のある人にとっては利用がむずかしかったり、生活をするうえで困ったりすることがあります。
障害のある人もない人も、地域で共に安心して暮らしていくために、このような生活のしづらさをなくさなくてはいけません。障害のある人が困っている様子を見かけたときや、手助けを求められたときは、その人の困っていることを取り除くために、できる限り力になるよう心がけることが大切です。

応募方法 はがき・FAX・e-mailのいずれかで、①郵便番号・住所②氏名③電話番号④参加希望人数を明記のうえ、ご応募ください。
※ご応募いただいた方には、招待状をお送りいたします(応募者多数の場合は抽選とします)。
※お預かりした個人情報は名古屋市と朝日新聞社が取得し、招待状の発送に使用させていただきます。
※当日は、手話通訳・要約筆記、点字資料、ルビふり版資料、車いす席の用意があります。原則、事前申込は不要ですが、上記以外に必要な配慮がある場合は、事前にお申し出ください。
はがき 〒460-8488(所在地不要) 朝日新聞名古屋本社メディアビジネス部「できることから考える」係
FAX 052-221-5804(「できることから考える」係と明記)
e-mail nadv-1@recv.asahi.com 件名「できることから考える」
応募締め切り／2020年1月20日(月)必着 ※FAX・e-mailは24:00まで
《お問い合わせ先》「できることから考える」事務局 TEL(052)231-5537(午前10時～午後5時30分、土・日・祝・12/29～1/3を除く)